

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253 1口500円にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。



News Letter

2022年10月2回号 発行: 常総生協広報G



2022-23年度活動テーマ(案)「つくと食べるでつながろう ～私たちの地産地消～」

約40年間、ありがとうございました！ 城山ステーション閉鎖のお知らせ



(写真左: 2022年8月さよなら感謝祭、写真右上: 2018年絵本セラピー、右中: 2018年さんま祭り、右下: 2018年クリスマス会)

つくば市城山団地内のテナントで地域のコミュニティーの場として組合員の自主的な活動で運営していた城山ステーションですが、建物の老朽化に伴い、8月いっぱいに取り壊しました。

1978年4月に団地内の「住民の店」として生活必需品を提供してきましたが、売り上げの減少により2004年7月で閉店、その後は地域の方の憩いの場として利用されてきました。2018年頃より、生協から季節の食材を使ったイベントなどを開催し、地域のみなさんとのひと時ではありますが、ふれあうことができ楽しい時間を過ごすことができました。

最後になりましたが8月12日には、「城山ステーションありがとう!さよなら感謝祭」を開催しました。生協からは理事さんが焼いたシフォンケーキ、ミートパル村山さんのご協力をいただきコロッケなどの揚げ物を販売しました。ステーションを利用されていた組合員のみなさんは、共同購入(個別配達)で、引き続き常総生協を利用しています。

40年以上に渡り、城山ステーションの活動を支えてくださり本当にありがとうございました。

●生協基幹運営／地域活動 ・ 催し●	●提携 ・ 協同 ・ 連帯企画●
・ 10/8(土) 島香さんのお魚講習会 ・ 10/8(土) まずだ落花生収穫体験 ・ 10/14(金) ミートパル村山交流会 ・ 10/22(土) 生産者プレゼンテーション会	・ 10/1(土)JCO臨界事故23周年集会 ・ 10/5(水)東海第二差止訴訟 原告団 世話人会

組合員寄稿 “ミャンマーは今” 厳しい状況下でも 将来の若者に懸ける (2)

(10月1回からの続きです)

～映画監督のアウン・コ・ラッさん～

荒木義宏 (柏市組合員・元ジェトロ (日本貿易振興機構) ヤンゴン事務所長)

～日本で映像を学ぶ～

実は、彼は映画監督としてよりもミュージシャンとしての方が今でもミャンマーでは名が通っています。1970年代末期ヤンゴン大学の学生時代に、彼はロックバンド『The Brothers』を結成、瞬く間に若者の寵児となり、TVの音楽ショーや全国ツアーに引っ張りだこの人気者でした。転機は1980年代の半ば、ある晩夢の中に占星術師が出てきて、“お前は外国、それも**日本に行くべきだ**”と告げられ、彼はそれを信じて日本行きを決めたと言います。



神田の酒店の佐々木社長(左)は
“日本のお父さん”

1986年に上京し、日本語学校に通う傍ら神田の酒屋さんでアルバイトをはじめました。真面目な人柄で明るい性格の彼は酒屋さんの主人に大いに気に入られ、“日本のお父さん”と呼ぶほどのお付き合いを続けたそうです。アーティストである彼は映像にも非常に関心が高く、

当時一世風靡していた8ミリカメラの「フジカ・シングルエイト」を購入し、その撮影研究会の会員となって独学で映像技術の基礎を学びました。また、合気道武田流中村派の道場にも通い、段位を取るほどの入れ込みようだったそうです。彼は東京の下町にすっかり溶け込み、江戸っ子のような歯切れ良い流暢な日本語を話します。

1988年にミャンマーで民主化運動が激化した事もあり、彼の日本滞在は10年にも及びました。帰国後すぐに彼はヤンゴンに映画制作会社 (Aung Ko Latt Motion Pictures) を設立、本格的に映像ビジネスにチャレンジします。日本で蓄えた資金を元手に高性能のSONYの撮影カメラなど必要な最新機材一式を調達しました。

1999年には若手映画人の養成学校New York Film Academy (NYFA) に短期留学、映画製作の技術に磨きをかけると共に国際的な人脈も作りました。2000年代半ば以降は、習得した映像技術を次世代の若者に伝授すべく国内外で実践的な講義活動を積極的に展開しはじめました。既にこの頃から彼は将来に向けての人材育成の重要性を認識していたのです。

～日緬合作映画に賭けた夢～

2013年には長年温めていた構想の映画化を実現し、彼自身初の本格的劇場映画『Kayan Beauties』を発表

します。タイ国境近くに住むカヤー族 (首長族) の女性がタイに人身売買されてゆく現状を批判し、少数民族の伝統文化や価値観への理解を訴えたこの作品は、ASEAN国際映画祭で大好評を博し審査員特別賞に輝きました。また同年のミャンマーアカデミー賞の撮影賞も獲得しました。



第1作“Kayan Beauties”のポスター

2015年10月、彼は共同通信社ミャンマー経済クラブが主催した『ミャンマー映画シンポジウム』に招待され、『Kayan Beauties』が日本で初めて紹介されました。実はこのシンポは筆者自身が企画したものでした。なんとかして彼のこの映画を日本で紹介したいと思ったからです。試写会は大成功でした。その後で開いたレセプションの会場で彼は多くの映画関係者と交流しました。そこで知り合った映画監督と彼は意気投合し、とんとん拍子で日緬の合作映画の制作へと話が進んでゆきました。これには大手映画配給会社も出資、東京とヤンゴン、バガンでの現地ロケも行われました。

そして2019年秋に『**ブローケン・ハープ 導かれた絆**』が完成しました。物語は日本とミャンマーという隔てられた国の間で繰り広げられるラブロマンスです。全編に挿入される音楽もアウン監督自ら作詞・作曲する熱の入れようでした。ところが運悪く翌2020年の初めから日本もミャンマーも新型コロナウイルスの感染拡大に見舞われます。2020年1月にまずミャンマーでプレミア公開されましたが、残念ながら日本では未だ劇場公開されていません。既に完成から2年以上経ちましたが、アウン監督は今 “**映像に目覚めさせてくれた第2の故郷日本**”での劇場公開を根気よく待ち続けています。(おわり)

.....

以上が、荒木さんからの報告です。

昨年6月のミャンマーの今を学ぶ学習会を経て、組合員と有志による千羽鶴を現地へ送る活動につながりました。荒木さんのご報告によると、“**1万羽以上集まった千羽鶴は、今もヤンゴン市内にあるライブラリーに飾られて来場者に安らぎを与えています**”とのことでした。

今回ご紹介いただいた映画監督のアウン・コ・ラッさん。色々な葛藤がある中でも“**若者たちの未来**”を見据えた活動をされていることが分かりました。第二、第三のアウンさんが、平和なミャンマーで活躍できる日を祈るばかりです。

事あるごとにみんなで考えること、忘れないことがとても大切だと感じました。今後も荒木さんからの続報もお願いできればと思います。アウン監督の作品が日本で公開される日を願いつつ、

皆さんからのご意見やご感想もお待ちしております。
(常総生協職員 柿崎洋)



8/8 (月) 常総生協本部組合員活動室とオンラインにて、HPVワクチンの上映会&学習会を開催し、22名の参加がありました。先週10月1回に引き続き、開催報告を掲載致します。

<HPVワクチンの副反応に関する被害補償>

①2013年3月末までの任意接種の時代 (緊急接種推進事業で、事実上の公費接種ではありましたが、法律上は任意接種だった) については通常の副作用救済制度で、請求先はPMDAです。

②一方、2013年4月以降の定期接種については、予防接種健康被害救済制度が適応され、市町村経由で届け出が行われます。補償金額もこちらの方が大きいです。

(参考資料 ; 健康被害救済制度について

<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/000588416.pdf>)

※障害者認定はされても、重篤な副反応とは認められないケースもあります。

<名古屋調査について>

名古屋市では、HPVワクチン副反応を訴える方々から実態調査を求める切実な声が寄せられ、実態を把握するために2015年に調査を実施。子宮頸がん予防接種を受けていない方も含めた約7万人を対象とし、接種を受けた方と受けていない方を比較する、全国で初めての大規模調査の結果が掲載されています。自由記述には、副反応と同じ症状を記載している部分が多く見られます。

名古屋市HP;子宮頸がん予防接種調査の結果を報告

<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000088972.html>

HPVワクチンと子宮頸がん検診

子宮頸がんはがんの中では珍しく予防できるがんです。HPVワクチンはがんになるのを防ぐワクチンで、打たないとがんになるワクチンではありません。ワクチンの効果によってどれだけがんにならないか? 検診を受ける事でどれだけがんにならないか? の競争です。

日本産婦人科学会の婦人科腫瘍委員会の2019年患者年報によると、何らかの理由で産婦人科の受診、検診を含め、検査で前がん病変(CIN3)が発見・治療できた人は15919人、子宮頸がんが見つかった人は7293人です。日本の医療、検診・治療において、子宮頸がんになる人の倍の人数を防いでいます。また早期(進行期Ⅰ期)に発見された人は7293人のうち4257人で、10年生存率は90%です。

(参考資料 ;

<http://fa.kyorin.co.jp/jsog/readPDF.php?file=73/7/073070796.pdf> 809)

例えば、HPVワクチンを接種したとしても、HPVワクチンで感染を防ぐことが出来ない種類のHPVもあるので、20歳になったら2年に1度の検診が大事です。

<検診の課題>

若年層の検診受診率 (20~24歳 13.1%、25~29歳 32.1%)と、他の世代が40%を超えているのに対して、検診率が低い状況です。(参考資料 ; 厚労省報道発表 H22が最新)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001igt0-att/2r9852000001iguh.pdf>

検診で行われる内診への抵抗感、男性医師による内診は経産婦でも抵抗があります。イギリスでは看護師によるスミアテーカーが細胞診を行うなど、検診を受けやすいような取り組みもあります。日本でも取り入れて欲しいと署名活動が行われています。

(スミアテーカーを増やそうプロジェクト ;

<https://onl.bz/pQeVspK>)

★講師 ; 隈本邦彦氏より

・HPVワクチン推進活動の中心になったのは、2013年の「子宮頸がん征圧をめざす専門家会議」の専門家で、産婦人科医などがボランティアで国会や厚労省に出向いたり、若い女性とのシンポジウムを開催したり、メディアをモナコの学会に招待したり、活発に活動していた。その中心である事務局長の前職はグラクソ・スミスクライン社のワクチン担当で、指摘により辞めている。

また、この団体には製薬会社のMSD社、グラクソ・スミスクライン社から公表されている範囲で1億800万円の寄付があったが、任意団体なので、寄付の使途までは公開されていない。

・HPVワクチンは海外でも2006年から、日本では2009年から接種されており、導入時の接種者は現在30歳前後。この接種者が子宮頸がん罹患の最も多い年齢に達する40歳ごろまで (今後10年) 子宮頸がんの推移を観察、様子を見ても遅くはない。

・副反応等に対する協力医療機関には、精神科はいても、神経症状を診れる神経内科がほとんどない。また、副反応の声を上げると「反ワクチン派」などと言われるが、この被害者の方々は決して反ワクチンではなく、むしろ、国から提示されたスケジュール通りに定期接種を打って被害に遭われていることを理解していただきたい。

・厚生労働省のHPの「政策について」→「審議会・研究会等」→「厚生科学審議会 (予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会)」を閲覧し、副反応報告等を知っていただきたい。

(次回はドキュメンタリー映画監督 : 澤則雄氏のコメントと講演の質疑応答についてお伝えします。※Newsletter2022年10月3回掲載予定)

インターネット注文からクチコミとふるさと便ができるようになりました！ぜひご利用ください。

①インターネット注文画面にて、クチコミを再開しました！！

★この商品は美味しかった！

★この商品はぜひ他の組合員へおすすめしたい！

というご意見をどしどしお寄せください！クチコミの内容は定期的に生産者にも伝えていきます。あなたの「おすすめ」がみんなの利用につながります♪

インターネット注文の新機能を知る



②とってもカンタン！「ふるさと便」はインターネット注文画面でもできます。

★先に「住所録依頼主」と「住所録届け先」を登録します。

★買い物かごの「新しい注文を開始」ボタンから注文を始めます。

★登録済みの注文は、一覧右の「商品選択」を押すと、商品ページから商品を追加できます。

★「編集」からは登録情報を修正したり、注文番号を入力して注文することができます。

／常総生協と一緒に働く人・大募集！／

現在タウンワークなどの求人募集紙に常総生協の求人(①配送スタッフ、②商品PRスタッフ、③仕分けスタッフ)を掲載しています。

特に①配送スタッフの人数が足りていません。ご家族・ご友人で興味・関心のある方がいましたら、ぜひ生協本部までお問合せください。

【①配送スタッフの要件】

- ・8:30～17:30／規定時間外有
- ・月給15.8万～＋残業、諸手当
- ・年収例390万円/月給27万＋手当/2年目
- ・休日/週2日制(土日)※休日出勤有
- ・年間休日105日

<連絡先> 0297-48-4911

採用担当：総務部(キウチ・イハラ)